7-22

## 5.4 樹種の選定

分離帯の樹種は年間を通して緑である常緑樹が望ましい。

参考として、表 5.2 及び表 5.3 に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

#### 表 5.2 分離帯用植栽樹種(中・低木)(参考)

新

玉物用	マメツゲ、イブキ、モッコク、ドウダンツツジ、シャリンバイ、ウバメガシ、ナワシログミ						
列植用	ヒイラギモクセイ, ウバメガシ, ハマヒサカキ, カイズカイブキ, ネズミモチ, アベリア,						
トベラ, イヌツゲ, キリシマツツジ, マサキ							
	デノ低いすの	サツキ、ヒメクチナシ、クサツゲ、ハイビャクシン、クルメツツジ、ツタ類、					
寄植用	ごく低いもの	カンツバキ, ヒサカキ, ハイシャリンバイ, マメツゲ					
	低 木	オオムラサキツツジ, ウバメガシ, ナワシログミ, ハマヒサカキ, トベラ					

#### (1) 遮光植栽

遮光効果が強く要求される比較的規格の高い道路では、分離帯に遮光性の高い樹種、つまり枝葉の密生した樹種を植栽すること。

一般的に使用されている遮光用樹種はカイズカイブキ,ウバメガシ,ネズミモチ,モッコク,マサキ等である。 また,植栽間隔について,**表**5.3 を標準とする。

遮光の目的で仕立物、株立ちの中低木を使用する場合の植栽間隔は、道路の曲線半径に従って縮小することを標準とする。

#### 表 5.3 最大植栽間隔 (参考)

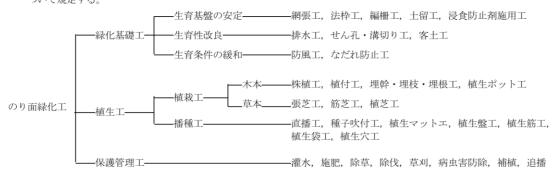
葉張り m	最大植	栽間隔:D	
(樹冠直径)	直線部分	R=150m	
0.6	3.0	2.0	
0.8	4.0	3.0	
1.0	5. 0	3.5	
1.2	6.0	4.0	

D:最大植栽間隔 R:道路の曲線半径

# 6. のり面緑化

#### 6.1 目的

のり面緑化工法は,種々のものがあるが,のり面表層部の保護のために行う工法については,第 8 編 $\hat{\mathbf{x}}$  2  $\hat{\mathbf{x}}$  のり面 保護でとりあつかうものとする。ここでは主に景観調和,景観向上,環境保全・復元を目的としたのり面緑化工法について規定する。



#### 5.4 樹種の選定

分離帯の樹種は年間を通して緑である常緑樹が望ましい。

#### 表 5.2 分離帯用植栽樹種 (中・低木)

旧

玉物用	マメツゲ,イブキ	, モッコク, ドウダンツツジ, シャリンバイ, ウバメガシ, ナワシログミ
7:11-± 111	ヒイラギモクセイ	, ウバメガシ, ハマヒサカキ, カイズカイブキ, ネズミモチ, アベリア,
列植用	トベラ, イヌツゲ	, キリシマツツジ, マサキ
	~ / M	サツキ, ヒメクチナシ, クサツゲ, ハイビャクシン, クルメツツジ, ツタ類,
寄植用	ごく低いもの	カンツバキ, ヒサカキ, ハイシャリンバイ, マメツゲ
	低 木	オオムラサキツツジ, ウバメガシ, ナワシログミ, ハマヒサカキ, トベラ

#### (1) 遮光植栽

遮光効果が強く要求される比較的規格の高い道路では、分離帯に遮光性の高い樹種、つまり枝葉の密生した樹種を植栽すること。

一般的に使用されている遮光用樹種はカイズカイブキ,ウバメガシ,ネズミモチ,モッコク,マサキ等である。 また,植栽間隔について,表5.3を標準とする。

遮光の目的で仕立物、株立ちの中低木を使用する場合の植栽間隔は、道路の曲線半径に従って縮小することを標準とする。

#### 表 5.3 最大植栽間隔

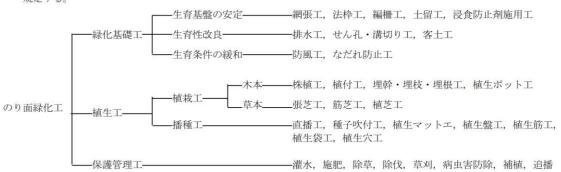
	衣 3.3 取入恒秋间隔					
葉張り m	最大植栽間隔:D					
(樹冠直径)	直線部分	R=150m				
0.6	3.0	2.0				
0.8	4.0	3.0				
1.0	5.0	3.5				
1.2	6.0	4.0				

D:最大植栽間隔 R:道路の曲線半径

## 6. のり面緑化

#### 6.1 日的

のり面縁化工法は、種々のものがあるが、のり面表層部の保護のために行う工法については、第8編のり面保護でとりあつかうものとする。ここでは主に景観調和、景観向上、環境保全・復元を目的としたのり面縁化工法について 規定する。



改定理由 5.4 樹種の選定

表 5.2 及ぶ表 5.3

について参考とし

て記載している旨

を追記

第7編 道路緑化

			新							旧			 改定理由
	り面緑化工法のして、のり面緑	<b>種類</b> 化工法の種類を表 6.1 及	とび図 6.1 に示すが,適	用にあたり最新基準等を	確認し, 都度検討			T43 11 - 14 o 1	F. W.				6.2 のり面緑化コ 法の種類
る必要が	ある。					6.2 のり面緑化工法の種類 表 6.1 のり面緑化工法の種類						表 6.1 及び図 6.1	
	福日		り面縁化工法の種類(	参考) □		緑化力	方法	項目	内容 【標準断面・寸法等は, 図 6.1 参照	施工注意	長短	用途	について参考とし
緑化方法	項目	内容 (標準断面・寸法等は,図6.1参照) (新之、脚料、土みどの吹付け	施工注意 ・施工に先立ち,のり面のゴ	長短	用途・盛土および切土	The last			種子,肥料,土などの吹付け 材料に水を加え比較的硬練	<ul><li>施工に先立ち,のり面のゴミ、浮石、浮土、浮根など</li></ul>	・大規模のり面に適する ・高所, 急勾配の施工が可能	<ul><li>・盛土および切土</li><li>・種子吹付け工事(C)に</li></ul>	て記載している旨
	種子吹付け工 (A)	材料に水を加え比較的硬練 りの状態で泥状混合物とし,	ミ, 浮石, 浮土, 浮根などを除去する。 ・のり面が乾燥している場合はのり而に徐々に散水し, 深さ20cm以上湿潤にして	<ul><li>高所, 急勾配の施工が可能</li></ul>			種	i子吹付け工(A)	りの状態で泥状混合物とし、 吹付け機を使用してのり面 に散布する工法 種子、肥料、ファイバーなど	を除去する。 ・のり而が乾燥している場合はのり面に徐々に散水し、深さ 20cm 以上湿潤にしておく	・大規模のり面に適する	適する ・溝切り客土と併用で きる  ・盛土および切土	を追記
吹	同上 (B)	種子,肥料,ファイバーなど の材料を水に分散させポン プなどの吹付け機を使用し	おく同上	・大規模のり面に適する ・施工能力がよい ・低所、緩勾配に適する	・盛土および切土 ・溝切り客土と併用で きる		吹付け	同上 (B)	個丁, ルペ, ファイハーなど の材料を水に分散させポン ブなどの吹付け機を使用し てのり面に散布する工法 のり面全面にあらかじめ客	同上・施工に先立ちのり而のゴ	・施工能力がよい ・低所、緩勾配に適する ・不良土質での施工を可能に	・溝切り客土と併用できる	
	同上 (C)	てのり面に散布する工法 のり面全面にあらかじめ客 土を吹き付け、その後に種子 吹き付けエ(A)、または(B) を施工する工法	・施工に先立ちのり面のゴ ミ, 浮石, 浮土, 浮根など を除去する。 客土は 74 μ フルイ (M200) 通過量 30~70%、 礫の寸法 は6 mm以下礫の量は5%以	・不良土質での施工を可能に する ・二重手間になる ・大規模のり面に適する	・切土 ・不良土質での施工		I	同上 (C)	土を吹き付け、その後に種子 吹き付けエ(A),または(B) を施工する工法		する ・二重手間になる ・大規模のり面に適する	・不良土質での施工	
	同上 (D)	のり面にあらかじめ溝切,客 土を施工しその後に種子吹 付け工(A)または(B)を施	下 同上	・不良土質での施工を可能 にする・溝切り客土は人力 による	同上			同上 (D)	のり面にあらかじめ溝切,客 土を施工しその後に種子吹 付け工(A)または(B)を施 工する工法 種子,肥料などを装着したマ	同上・権工に失立ちとくにのり面	不良土質での施工を可能 にする・溝切り客土は人力 による     ・低所、緩勾配に適する     ・	同上・威士などが日十	
	植生マットエ	ット類でのり面を全面的に 被覆する工法である。マット 材料として不織マット, 粗目 織, 布紙, ワラすだれ, ムシ	<ul><li>・目串は1mに8本使用し、 押えネットを留める</li><li>・マット相互の重なりは羽重</li></ul>		・盛土および切土 ・補修用 ・冬期施工	播		植生マットエ	ット類でのり面を全面的に 被覆する工法である。マット 材料として不識マット, 粗目 織, 布紙, ワラすだれ, ムシ	の凹凸をなくし浮石、雑草 などを取り除く ・目申は1mに8本使用し、 押えネットを留める ・マット相互の重なりは羽重 ねとし、重ね幅は5cm以上 とする ・のり買の水平部は30cm以 上被覆する。	能 ・保湿効果がある ・小面積施工可能	·補修用 ·冬期施工	
	植生筋工	種子、肥料などを装着した帯 状の布または紙を、盛土のり 面の土羽打ちの際水平に、筋 状に挿入する工法	って30 cmを標準とする ・土羽土を打ち上げる際,仕 上がり箇所に土をこぼさ ないこと ・のり肩の天芝にあたる箇所		• 盛土			植生筋工	状の布または紙を、盛土のり 面の土羽打ちの際水平に、筋 状に挿入する工法	って30 cmを標準とする ・土羽土を打ち上げる際、仕上がり箇所に土をこぼさないこと ・のり肩の天芝にあたる箇所は5~10 cm被膜しやや高く盛り上げる。	防止効果あり ・単価が安い ・施工能力が劣る		
	植生盤工	形し表面に種子をセットし たものを,のり面に一定間隔	は5~10 cm被膜しやや高 く盛り上げる。 ・盤を溝に配列し地盤と盤の 相互間にすき間ができな いよう十分密着させる ・目申は20 cm程度のものを 1 枚当たり2本使用する ・のり肩部の崩壊防止のため	・有機質肥料を有し肥効が長い	<ul><li>・切土</li><li>・軟岩, 礫質土での施工</li></ul>	種	植生	植生盤工	形し表面に種子をセットしたものを、のり面に一定間隔 に水平溝を掘り、帯状に張り 付ける工法	<ul> <li>目串は 20 cm程度のものを 1 枚当たり 2 本使用する</li> <li>のり肩部の崩壊防止のためのり肩の上側に 1 列以上 植生盤を用いる</li> </ul>	・有機質肥料を有し肥効が長 い ・単価が高い	I	
EL	植生袋工	肥土に種子を混合し網袋に 詰めたものを,のり面に一定 間隔に水平溝を掘り,張り付 ける工法	料,種子を加えて十分撹絆 する	・種子肥料の流失が少ない ・柔軟性があるので地盤に装着する ・急勾配および冬・夏期施工 可能			T	植生袋工		料,種子を加えて十分撹絆 する	<ul><li>・柔軟性があるので地盤に装着する</li><li>・急勾配および冬・夏期施工可能</li></ul>		
	植生穴工	のり面に穴を穿ち底部に固型肥料,添加剤を混入して充 てんした上に種紙を置き, 覆 土,被赎養生する工法	が生じないよう十分圧着 する ・のり面に直角に穴をあける のが普通であるが、急勾配		・切土・硬い土質での施工			植生穴工	のり面に穴を穿ち底部に固型肥料,添加剤を混入して充 てんした上に種紙を置き,覆土,被膜養生する工法	<ul><li>のり面に直角に穴をあける のが普通であるが、急勾配</li></ul>		・切土 ・硬い土質での施工	
		あらかじめ、のり面に穴を千 鳥状に掘り、穴に肥料等を挿	たり13個とする ・客土は十分密に挿入する ・穴は1㎡当たり9~11個の	<ul><li>あらかじめ栽培しているので確実性がある</li></ul>	同上			植生ポットエ		<ul> <li>・穴は1㎡当たり9~11個の割合で掘る</li> <li>・穴はボットの大きさとできるだけ同じとし、原地盤との間にすき間のないよ</li> </ul>	で確実性がある ・栽培のための場所,期間が	同上	
	植生ポットエ	鳥状に掘り, 穴に肥料等を挿 入して, さらに芝草 (ティフ		で確実性がある ・栽培のための場所, 期間が				植生ポットエ	トン芝等〉を栽培した泥炭製	きるだけ同じとし, 原地盤			

第7編 道路緑化

7-26

# 6.4 のり面勾配による適応工法

緑化工法は、草木の種子を直接まきつける播種工と生産された苗をのり面に植える植栽工とに大別される。 参考として、のり面勾配による適応工法の種類を表 6.2 に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

新

## 表 6.2 のり面勾配による適応工法 (参考)

のり面勾配	緑化工法	施工注意	適用
1:1.7以下	どの植生工法で も適用可能	・排水工を設置する	・高木が優占する植物社会の復元が 可能 ・生育が良好で植生被覆が完成すれ ば表面浸食の危険はない ・在来種の進入が容易で自然復旧が 早い
1:1.7 ~ 1:1.4 (30~35°)	n .	・排水工を設置する	・35°は、放置した場合に自然復旧する限界角度である
1:1.4~1:1 (35~45°)	播種工であれば すべて可能	・生育基盤の安定を目的とする緑化基 礎工を設置する	・中・低木が優占し、草木が地表を 覆う植物群落の復元をめざす ・高木を購入すると、将来生育基礎 が不安定になる危険性がある
1:1~1:0.6 (45~60°)	植生穴工植生袋工	・のり面上に表層工なしで 15 cm以上 の厚土に客土することを避ける ・生育基盤の安定を目的とする強固な 緑化基礎工を設置する	・低木や草木からなる丈の低い植物 群落の復元をめざす

## 7. 岩盤緑化

## 7.1 岩盤緑化工法

参考として、岩盤緑化対策例を表7.1に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

## 表 7.1 岩質などによる無土壌岩石地緑化対策例(参考)

岩質	斜面	平面
	厚層吹付け (有機質資材),	ダイナマイト・リッパー・ドリルなどによる岩盤加工
硬岩	厚層客土(各種枠工)と植生工	厚層客土, 植穴客土, 有機質資材埋設と植生工
议石	小段植栽, 遮蔽植栽	
	つる植物緑化	
	厚層吹付け(有機質資材ほか),溝切厚	リッパー・バックホウなどによる力工
軟岩	層客土(各種枠工),筋工,穴工	厚層客土, 植穴客土, 有機質資材埋設と植生工
<b>联石</b>	編柵客土,有機質資材埋設等と植生工小段	
	植栽,遮蔽植栽	
H-DH-	厚層客土 (各種枠工), 植穴客土, 編柵客土,	厚層客土,植穴客土等と植生工
崖錐	各種ネットと植生工	

#### 6.4 のり面勾配による適応工法

緑化工法は、草木の種子を直接まきつける播種工と生産された苗をのり面に植える植栽工とに大別される。

## 表 6.2 のり面勾配による適応工法

旧

のり面勾配	緑化工法	施工注意	適用
1:1.7以下	どの植生工法でも適用可能	・排水工を設置する	<ul><li>・高木が優占する植物社会の復元が可能</li><li>・生育が良好で植生被覆が完成すれば表面浸食の危険はない</li><li>・在来種の進入が容易で自然復旧が早い</li></ul>
1:1.7 ~ 1:1.4 (30~35°)	II	・排水工を設置する	・35°は、放置した場合に自然復旧する限界角度である
1:1.4~1:1 (35~45°)	播種工であれば すべて可能	・生育基盤の安定を目的とする緑化基 礎工を設置する	・中・低木が優占し、草木が地表を 覆う植物群落の復元をめざす ・高木を購入すると、将来生育基礎 が不安定になる危険性がある
1:1~1:0.6 (45~60°)	植生穴工植生袋工	・のり面上に表層工なしで 15 cm以上 の厚土に客土することを避ける ・生育基盤の安定を目的とする強固な 緑化基礎工を設置する	・低木や草木からなる丈の低い植物 群落の復元をめざす

# 7. 岩盤緑化

# 7.1 岩盤緑化工法

岩盤緑化対策例を表 6.1 に示す。

# 表 7.1 岩質などによる無土壌岩石地緑化対策例

岩質	斜 面	平面
	厚層吹付け (有機質資材),	ダイナマイト・リッパー・ドリルなどによる岩盤加工
硬岩	厚層客土(各種枠工)と植生工	厚層客土, 植穴客土, 有機質資材埋設と植生工
伙石	小段植栽,遮蔽植栽	
	つる植物緑化	
	厚層吹付け(有機質資材ほか),溝切厚	リッパー・バックホウなどによる力工
軟岩	層客土(各種枠工), 筋工, 穴工	厚層客土, 植穴客土, 有機質資材埋設と植生工
<b></b>	編柵客土,有機質資材埋設等と植生工小段	
	植栽,遮蔽植栽	
崖錐	厚層客土 (各種枠工), 植穴客土, 編柵客土,	厚層客土, 植穴客土等と植生工
走班	各種ネットと植生工	

# 6.4 のり面勾配による適用工法

表 6.2 について参考として記載している旨を追記

改定理由

# 7.1 岩盤緑化

表 7.1 について参考として記載している旨を追記

7-27

新

## 7.2 樹種の特性

## 7.2.1 外来種と在来種

在来種の利用が望ましいが、初期成長が遅く、冬季の地表保護能力が劣っている。急速緑化、浸食防止のためには 外来種の芝草が最も適している。

自然環境保全を重視する地域で在来種の利用例が多いが、初期成長が遅いため外来種と混播するなどの処置が必要である。

## 参考として、表7.2及び表7.3に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

表 7.2 無土壌岩石地緑化に用いられる主な芝草 (参考)

通称	暖	寒	湿	乾燥	日陰	備考
センチピードグラス	0		0			夏草、やせ地に耐える
ケンタッキー31 フェスク	0	0	0		0	冬草
クリーピングレッドフェ		0	0		0	冬草
バミューダグラス	0		0			夏草, 在来種, 品種あり
バピアグラス	0	0				夏草
カナリーリード	0	0		0		冬草, 在来種
ノシバ	0					夏草, 在来種, 播種初期生育
ススキ	0					夏草, 在来種, 播種初期生育

#### ◎最適 ○適

#### 表 7.3 日本の温帯、暖帯の無土壌岩石地緑化で用いられる主な植物(参考)

科目	種名	特性
	ホワイトクローバー	冬草,耐寒性,耐陰性あり
	メドハギ	最も急速緑化に適する在来種
- J = N	ハギ類	イタチハギ、キハギ、ヤマハギなど、在来種
マメ科	コマツナギ	草本様小低木,在来種
	ネムノキ	落葉高木, 暖帯~熱帯, 花卉, 在来種
	エニシダ	低木,花卉,地中海地方原産
ハンノキ	ケヤマハンノキ	高木、他のハンノキ類も可、在来種
科	ヤシャブシ類	オオバヤシャブシ (中木), ヒメヤシャブシ (低木), 在来種
7.0/14	グミ類	低木、グミ科、アキグミ、ナワシログミなど、在来種
その他	ヤマモモ	高木、ヤマモモ科、暖地
r:- #:- #:- #-	ヨモギ	多年草, やや日陰に耐える, 他のヨモギ類も用いられる
広葉草本	イタドリ	多年草、寒冷地ではオオイタドリ
	タニウツギ	落葉低木、日本海側が自生地
木本	スイカズラ	半常緑つる、木本植物
Ī	クサギ	落葉低木、分布広い

## 7.2 樹種の特性

## 7.2.1 外来種と在来種

在来種の利用が望ましいが、初期成長が遅く、冬季の地表保護能力が劣っている。急速緑化、浸食防止のためには 外来種の芝草が最も適している。

旧

自然環境保全を重視する地域で在来種の利用例が多いが、初期成長が遅いため外来種と混播するなどの処置が必要である。

## 表 7.2 無土壌岩石地緑化に用いられる主な芝草

通称	暖	寒	湿	乾燥	日陰	備考
センチピードグラス	0		0			夏草、やせ地に耐える
ケンタッキー31 フェスク	0	0	0		0	冬草
クリーピングレッドフェ		0	0		0	冬草
バミューダグラス	0		0			夏草, 在来種, 品種あり
バピアグラス	0	0				夏草
カナリーリード	0	0		0		冬草, 在来種
ノシバ	0					夏草, 在来種, 播種初期生育
ススキ	0					夏草, 在来種, 播種初期生育

◎最適 ○適

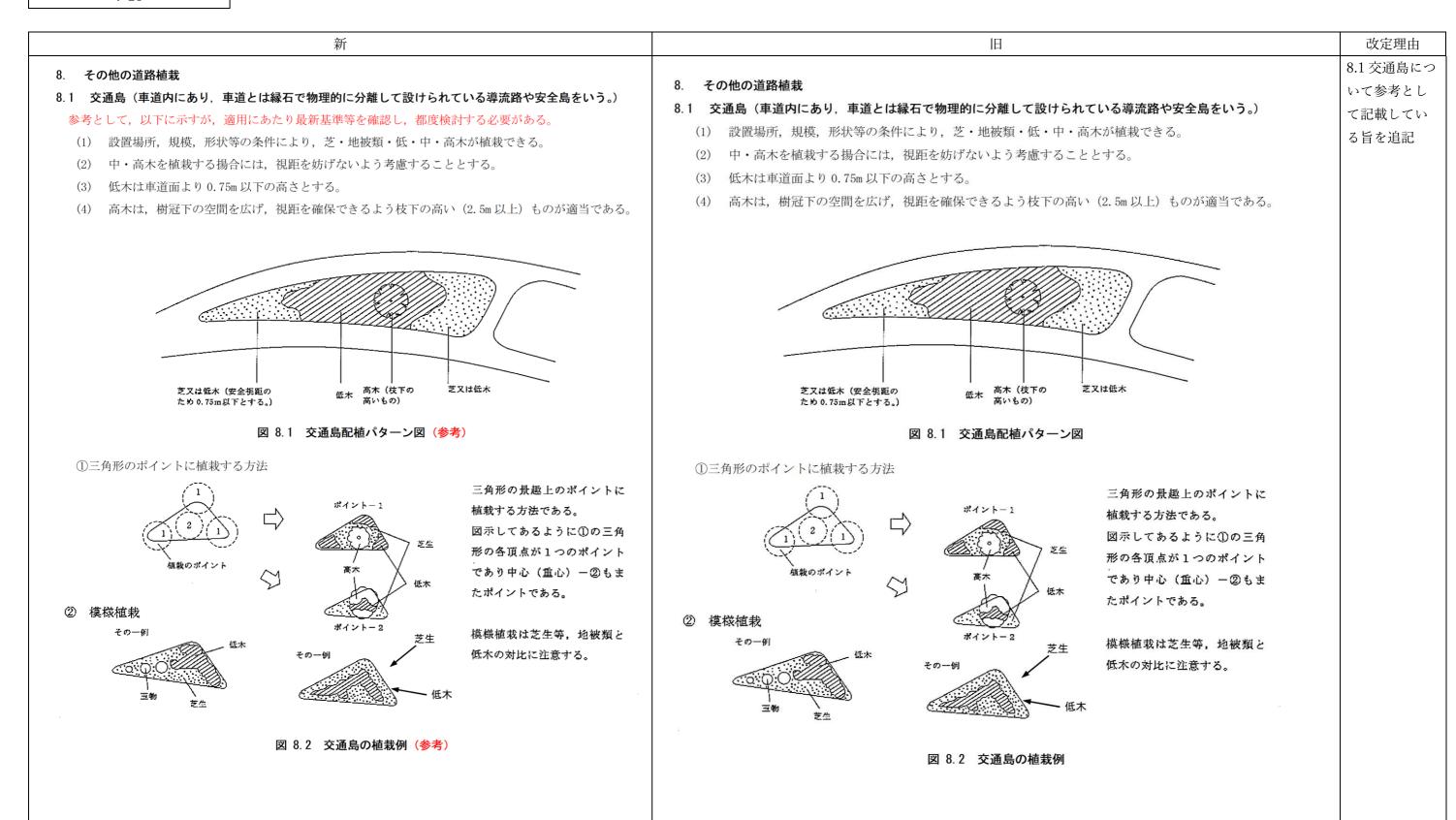
## 表 7.3 日本の温帯、暖帯の無土壌岩石地緑化で用いられる主な植物

科目	種名	特性
	ホワイトクローバー	冬草、耐寒性、耐陰性あり
	メドハギ	最も急速緑化に適する在来種
- J A)	ハギ類	イタチハギ、キハギ、ヤマハギなど、在来種
マメ科	コマツナギ	草本様小低木,在来種
	ネムノキ	落葉高木, 暖帯~熱帯, 花卉, 在来種
	エニシダ	低木,花卉,地中海地方原産
ハンノキ	ケヤマハンノキ	高木、他のハンノキ類も可、在来種
科	ヤシャブシ類	オオバヤシャブシ (中木), ヒメヤシャブシ (低木), 在来種
7.00/1/2	グミ類	低木、グミ科、アキグミ、ナワシログミなど、在来種
その他	ヤマモモ	高木、ヤマモモ科、暖地
<b>宁茶</b> 井-	ヨモギ	多年草, やや日陰に耐える, 他のヨモギ類も用いられる
広葉草本	イタドリ	多年草、寒冷地ではオオイタドリ
	タニウツギ	落葉低木、日本海側が自生地
木本	スイカズラ	半常緑つる、木本植物
	クサギ	落葉低木、分布広い

# 7.2 樹種の特性

表 7.2 及び表 7.3 について参考として記載している旨を追記

改定理由



第7編 道路緑化

7-29

8.2 壁面緑化(コンクリート擁壁面やトレリスをつる植物等で被い緑化する。)

参考として、以下に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

- (1) 道路の生育環境等に適したつる植物を選定することとする。
- (2) つる植物には、巻きつるによるもの、巻きひげによるもの、気根・付着根によるもの、吸盤によるものも ある。
- (3) コンクリート擁壁面で巻きつき型の植物を使う場合は、ネットや格子柵等の補助資材が必要となる。

新

# 表 8.1 壁面緑化等植物一覧(参考)

種類	葉	花	年間伸長	支持形式	被覆規模	常・落
ፖ⁄ታビ	五つに分かれて手を拡 げたような形, 淡い緑	紫色,垂れて咲く,鑑 賞に耐える	2~3m	巻きつき	中	落
イタヒ゛カス゛ラ	大きさ1~2cmくらいの 小さなハート形	目立たない赤色の花	2m	吸盤	中	常
^デラ類 (西洋 キヅタ)	いろいろな種類があ り、3~5 つに切り込み のある葉で大きさ 2~ 20cm くらいまで	黄緑色の小さな花	1∼3m	気根	大・中	告
フユツ゛タ	深い緑色で光沢があり 老成した枝のものは卵型,一般には3~5の切り込みがある	黄緑色の小さな花	1∼2m	気根	大規模可	常
サネカス <sup>*</sup> ラ (ビナンカス <sup>*</sup> ラ)	楕円形で長さ 5~10cm, 幅 3~5cm 柔らかく一面 光沢あり。	実紅色で美しい	1∼2m	巻きつき	中	常
スイカス゛ラ	楕円形の葉で淡い緑	始めは白色、後に黄色 に変わる	6∼7m	巻きつき (右巻)	小	常
ツルハ゛ラ		花はいろいろあり	1∼2m	寄りかか り人為的 に支持	中	落
ツキヌキニント゛ウ	茎が葉をつき抜けてい る	美しい赤い花	1 m	巻きつき	小	落
テイカカス゛ラ	濃い緑色	始めは白色,後に黄色 に変わる	1m	気根	中	常
ノウセ゛ンカス゛ラ	複葉の葉	美しい大きい花	2~3m	気根	中	落
ツリカ゛ネカス゛ラ (ヒ゛ク <i>ノニ</i> ア)	小葉は,長さ7~10cm,幅3~5cmの長楕円形	大きいラッパ状の花	1 m	巻きつき 吸盤	中	常
クレマチス		紫,赤,青,白系等の 単色の花	1m	巻きつき	小	常
シナサルナシ	長さ 15~20cm,幅 15~ 20 cmの楕円形	淡黄白色,芳香あり	1 m	巻きつき	中	落
トケイソウ	葉は掌状に5~7深裂し 濃緑色	淡紫色の時計の文字 盤に似た花	1m	巻きつき	小	常
カロライナ シ゛ャスミン	葉は長さ 3~5cm, 幅 1 ~1.5cm の長楕円形	トランペット形で黄色	1 m	巻きつき	中	常
ナツツ゛タ	趣深い形の葉、秋紅葉 する	_	3∼5m	吸盤のあ る巻きひ げ	大	落
フシ゛ ( <i>)</i> タ゛フシ゛)	複葉の葉	穂状に垂れさがった 花	3∼5m	巻きつき (右巻)	大規模可	落

# 8.2 壁面緑化 (コンクリート擁壁面やトレリスをつる植物等で被い緑化する。)

- (1) 道路の生育環境等に適したつる植物を選定することとする。
- (2) つる植物には、巻きつるによるもの、巻きひげによるもの、気根・付着根によるもの、吸盤によるものも
- (3) コンクリート擁壁面で巻きつき型の植物を使う場合は、ネットや格子柵等の補助資材が必要となる。

旧

#### 表 8.1 壁面緑化等植物一覧

fri der	-44-	#-	7-88 /4 E		Advant Las Lett	21444-
種類	葉	花	年間伸長	支持形式	被覆規模	常・落
<i>7</i> ケヒ゛	五つに分かれて手を拡 げたような形, 淡い緑	紫色,垂れて咲く,鑑 賞に耐える	2~3m	巻きつき	中	落
イタヒ゛カス゛ラ	大きさ1~2cmくらいの 小さなハート形	目立たない赤色の花	2m	吸盤	中	常
^デラ類 (西洋 キヅタ)	いろいろな種類があ り、3~5 つに切り込み のある葉で大きさ 2~ 20cm くらいまで	黄緑色の小さな花	1∼3m	気根	大・中	常
フユヴェタ	深い緑色で光沢があり 老成した枝のものは卵型,一般には3~5の切り込みがある	のは卵		気根	大規模可	常
サネカス <sup>*</sup> ラ (ヒ <sup>*</sup> ナンカス <sup>*</sup> ラ)	楕円形で長さ5~10cm, 幅3~5cm柔らかく一面 光沢あり。	実紅色で美しい	1∼2m	巻きつき	中	常
スイカス゛ラ	楕円形の葉で淡い緑	始めは白色,後に黄色 に変わる	6~7m	巻きつき (右巻)	小	常
ヴルバラ		花はいろいろあり	1∼2m	寄りかか り人為的 に支持	中	落
ツキヌキニント゛ウ	茎が葉をつき抜けてい る	美しい赤い花	1m	巻きつき	小	落
テイカカス゛ラ	濃い緑色	始めは白色,後に黄色 に変わる	1m	気根	中	常
ノウセ゛ンカス゛ラ	複葉の葉	美しい大きい花	2~3m	気根	中	落
ツリカ゛ネカス゛ラ (ヒ゛クノニア)	小葉は,長さ7~10cm,幅3~5cmの長楕円形	大きいラッパ状の花	1m	巻きつき 吸盤	中	常
クレマチス		紫,赤,青,白系等の 単色の花	1m	巻きつき	小	常
シナサルナシ	長さ15~20cm,幅15~ 20cmの楕円形	淡黄白色,芳香あり	1m	巻きつき	中	落
トケイソウ	葉は掌状に5~7深裂し 濃緑色	淡紫色の時計の文字 盤に似た花	1m	巻きつき	小	常
カロライナ シ゛ャスミン	葉は長さ 3~5cm, 幅 1 ~1.5cm の長楕円形	トランペット形で黄色	1m	巻きつき	中	常
ナツツ゛タ	趣深い形の葉、秋紅葉 する	-	3∼5m	吸盤のあ る巻きひ げ	大	落
フジ (14 ブジ )	複葉の葉	穂状に垂れさがった 花	3∼5m	巻きつき (右巻)	大規模可	落

8.2 壁面緑化について参考として記載している旨を追記

改定理由

第7編 道路緑化

#### 7-30 新 旧 改定理由 8.3 ポケットパーク 8.3 ポケットパーク 8.3 ポケットパーク について参考として 参考として、以下に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。 (1) 高木は緑陰と日差しの両面に考慮を払い、落葉樹を主とするが、常緑も適宜配置する。 記載している旨を追 (1) 高木は緑陰と日差しの両面に考慮を払い、落葉樹を主とするが、常緑も適宜配置する。 (2) 周辺に支障のない程度で、枝の拡がる樹種が望ましい。 (2) 周辺に支障のない程度で、枝の拡がる樹種が望ましい。 (3) 高木は視界をさえぎらぬよう枝下は 2.5m 以上とする。 (3) 高木は視界をさえぎらぬよう枝下は 2.5m 以上とする。 (4) 使用する樹種は紅葉とか花や香りの特徴を持つものを用いると、なお効果的である。 (4) 使用する樹種は紅葉とか花や香りの特徴を持つものを用いると、なお効果的である。 (5) 低木と下草類との併用は安定感を助長する場合が多い。 (5) 低木と下草類との併用は安定感を助長する場合が多い。 (6) 道路標識等の支障にならぬよう配慮することとする。 (6) 道路標識等の支障にならぬよう配慮することとする。

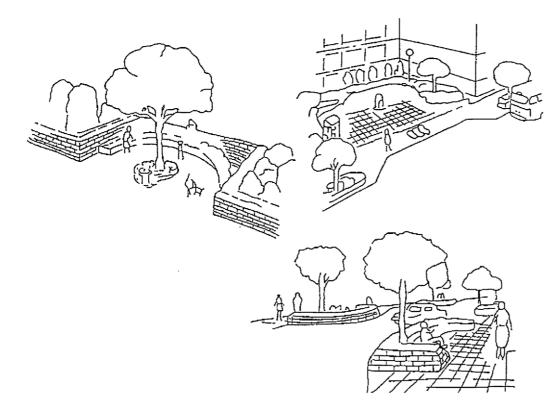


図 8.3 ポケットパークの例 (参考)

ポケットパーク整備は、人々のふれあう道をめざして歩道等に隣接する小スペースを利用し、地域の個性を 取り入れ,歴史性の感じられる歩道やシンボル性の高い施設によって,街の個性を発揮する道路空間の整備を 行うものである。

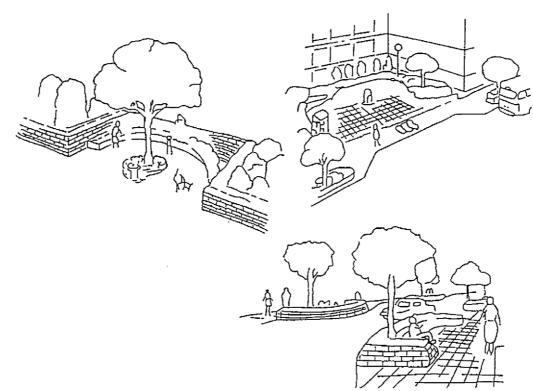


図 8.3 ポケットパークの例

ポケットパーク整備は、人々のふれあう道をめざして歩道等に隣接する小スペースを利用し、地域の個性を 取り入れ、歴史性の感じられる歩道やシンボル性の高い施設によって、街の個性を発揮する道路空間の整備を 行うものである。

第7編 道路緑化

新	IΒ	改定理由		
0.4 京加下标类		8.4 高架下植栽について参考として記載してい		
8.4 高架下植栽  参考として、以下に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。  (1) 緑化対象地となる高架下の日照条件、特に可照時間等についてあらかじめ調査を行い、その結果に基づき緑化用植物を厳選する。  (2) 高架下の中央部分は必然的に日照条件がより厳しくなるため、極力緑化空間としない。  (3) 配植は、極力明るい雰囲気の植栽を心がける。  (4) 橋脚の部分を景観対策上、つる植物で緑化するケースも増えている。(この手法については壁面緑化の項を参照のこと)  (5) 高架下の中央部分を緑化する場合は、降雨が全く当たらないため、灌水装置の設置が望ましい。  表 8.2 高架下緑化用としての植物の適性度合判定結果例(参考)	8.4 高架下植栽  (1) 緑化対象地となる高架下の日照条件,特に可照時間等についてあらかじめ調査を行い,その結果に基づき 緑化用植物を厳選する。  (2) 高架下の中央部分は必然的に日照条件がより厳しくなるため,極力緑化空間としない。  (3) 配植は,極力明るい雰囲気の植栽を心がける。  (4) 橋脚の部分を景観対策上,つる植物で緑化するケースも増えている。(この手法については壁面緑化の項を 参照のこと)  (5) 高架下の中央部分を緑化する場合は,降雨が全く当たらないため,灌水装置の設置が望ましい。  表8.2 高架下緑化用としての植物の適性度合判定結果例	1		
マ テ バ シ イ ○ ○ ○ × × シャリンバイ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	マ テ バ シ イ 〇 〇 △ × × シャリンパイ 〇 〇 △ × × × (他被嫌物) ○ ○ △ × × × (中 木) □ ○ ○ △ × × ○ ○ ○ ○ △ × ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑ ↑			
	*日照条件レベル 日 照 時 間 ① レベル: 4時間以上 ② レベル: 3時間59分~2時間30分			
② レベル: 3時間 59 分~ 2 時間 30 分	③ レベル: 2時間 29分~1時間			
③ レベル: 2 時間 29 分~ 1 時間 ④ レベル: 59 分~20 分	④ レベル: 59 分~20 分			
**適性度合 ②:最適 ○:道 △:やや不適 ×:不適	**適性度合 ②:最適 〇:適 Δ:やや不適 ×:不適			

第7編 道路緑化

7-32

# 9. 植栽基盤の整備

植栽基盤について、あらかじめその適性を調査し、必要な場合は植栽地構造及び土壌の改良を行うことが望ましい。 植栽基盤調査については「道路緑化技術基準・同解説、昭和63年12月、日本道路協会」資料4を参考とするものと するが、適用にあたっては最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

新

#### 9.1 植栽地構造

#### 参考として、以下に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。

植栽地構造の条件としては、有効土層の確保及び排水性・膨軟性の確保するものとする。 路床施行時、植栽帯を締め固めると、不良土となる可能性があるので注意を要する。

表 9.1 有効土層厚(参考)

			20.1	737工作厅(多·37		
	種別	土層厚	最小土層厚	土層面積	備考	
高木	高木 深根性 1.5m		.5m 0.9m 高木単独植栽の場合は,鉢径 植栽帯に高木			
	浅根性	0.9	0.6	の2倍以上。植樹桝の場合は,	裁する場合、土層厚・面積	
中木		0.6	0.45	植樹桝内	が異なることに留意する。	
低木・	地被	0.45	0.3			
芝		0.3	0. 15			

- (注) 1. やむを得ない数値を使用する場合は、集排水及び客土の質を十分考慮すること。
- (注) 2. 高木植栽で、植穴深さが 0.9m~1.5m 以上の場合は、植穴深さまで客土とする。

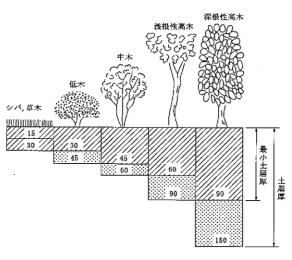


図 9.1 樹木の必要最小土層厚さ(参考)

# 表 9.2 深根性の樹木

(参考)

針葉高木	アカマツ、ダイオウショウ、モミ、スギ、カヤ等
常緑高木	シイ, マテバシイ, アカガシ, クス, タブ, ヤブツバキ,
	ヤマモモ、モクマオウ等。
落葉高木	アオギリ,ケヤキ,ユリノキ等。
常緑低木	チャ等。

#### 9. 植栽基盤の整備

植栽基盤について、あらかじめその適性を調査し、必要な場合は植栽地構造及び土壌の改良を行うことが望ましい。 植栽基盤調査については「道路緑化技術基準・同解説」資料4によるものとする。

旧

# 9.1 植栽地構造

植栽地構造の条件としては、有効土層の確保及び排水性・膨軟性の確保するものとする。 路床施行時、植栽帯を締め固めると、不良土となる可能性があるので注意を要する。

表 9.1 有効土層厚

	種別	土層厚	最小土層厚	土層面積	備考
高木	深根性	1.5m	0.9m	高木単独植栽の場合は, 鉢径	植栽帯に高木と低木を植
	浅根性	0.9	0.6	の2倍以上。植樹桝の場合は,	栽する場合、土層厚・面積
中木		0.6	0.45	植樹桝内	が異なることに留意する。
低木・	地被	0. 45	0.3		
芝		0.3	0. 15		
(注) 1	めなると思わい米	が付かは田士ス担合	け 生排水及び安	・十の質を十八去唐オステレ	

- (注) 1. やむを得ない数値を使用する場合は、集排水及び客土の質を十分考慮すること。
- (注) 2. 高木植栽で、植穴深さが 0.9m~1.5m 以上の場合は、植穴深さまで客土とする。

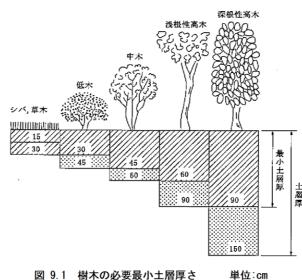


図 9.1 樹木の必要最小土層厚さ

## 表 9.2 深根性の樹木

(参考) 針葉高木 アカマツ, ダイオウショウ, モミ, スギ, カヤ等 常緑高木 シイ, マテバシイ, アカガシ, クス, タブ, ヤブツバキ, ヤマモモ, モクマオウ等。 アオギリ,ケヤキ,ユリノキ等。 落葉高木 常緑低木 チャ等。

## 改定理由

9.植栽基盤の整備, 9.1 植栽地構造について参 考として記載している旨を追記

第7編 道路緑化

7-33

新  $\mathbb{H}$ 改定理由 9.2 土壌の改良について参考として記載して 9.2 土壌の改良 9.2 土壌の改良 いる旨を追記 植栽地の土壌が不良で、表土の確保、利用が困難な揚合は、土壌改良を行う必要があるものとする。 参考として、以下に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。 土壌改良には客土を用いる方法と土壌改良資材を用いる方法があるが、土壌改良資材による方法は、比較的軽度の 植栽地の土壌が不良で、表土の確保、利用が困難な揚合は、土壌改良を行う必要があるものとする。 物理性、化学性の改良に限られる。物理性、化学性が著しく不良で、広範囲に及んでいる揚合は、土壌改良資材単体 土壌改良には客土を用いる方法と土壌改良資材を用いる方法があるが、土壌改良資材による方法は、比較的軽度の による改良では十分な効果があがらないばかりでなく、経済的にも非常に高価なものとなる。このような場合、比較 物理性,化学性の改良に限られる。物理性,化学性が著しく不良で,広範囲に及んでいる揚合は,土壌改良資材単体 的良好な土壌をあらかじめ保存しておき、土壌改良資材により改良を加えた後、客土する方法が有効である。 による改良では十分な効果があがらないばかりでなく、経済的にも非常に高価なものとなる。このような場合、比較 【参考】道路緑化技術基準·同解説, P. 154, 昭和63年12月, (社) 日本道路協会 的良好な土壌をあらかじめ保存しておき、土壌改良資材により改良を加えた後、客土する方法が有効である。 (1) 客土の種類 (1) 客土の種類 表 9.3 客土の種類 表 9.3 客土の種類 (参考) 植栽帯・植栽地の全面に、一定の厚みで投入する客土で、植物の生育地盤の全てが新しい客 植栽帯・植栽地の全面に、一定の厚みで投入する客土で、植物の生育地盤の全てが新しい客 土になるものである。植栽帯は高木と低木とが組合わされるから、高木部分では深く、低木部 土になるものである。植栽帯は高木と低木とが組合わされるから、高木部分では深く、低木部 全面客土 全面客土 分では浅くなることもある。対象樹木の根系生育域もしくは植桝内の全てに充てんされる客土 分では浅くなることもある。対象樹木の根系生育域もしくは植桝内の全てに充てんされる客土 である。 植穴とは、単木で植えこまれる場合に鉢の大きさに合わせて余裕をもって用意される穴で、 植穴とは、単木で植えこまれる場合に鉢の大きさに合わせて余裕をもって用意される穴で、 植穴に植栽木の鉢が据えられた後に埋め戻される客土である。初期の発生根を十分生長させ得 植穴客十 植穴に植栽木の鉢が据えられた後に埋め戻される客土である。初期の発生根を十分生長させ得 植穴客土 る容積と土質が要求される。 る容積と土質が要求される。 原土の土質が良好で、掘りあげた土がそのまま埋め戻し土として使用し得るような場合、全 原土の土質が良好で、掘りあげた土がそのまま埋め戻し土として使用し得るような場合、全 面客土の土質がそれほど良好でない場合、あるいは鉢が小さく根系が貧弱で特別に配慮する必 面客土の土質がそれほど良好でない場合、あるいは鉢が小さく根系が貧弱で特別に配慮する必 活着促進客土 | 要がある場合などに、鉢の周囲または振い苗の場合の根群問に、きわめて土質のよい土を用意 活着促進客土 要がある場合などに、鉢の周囲または振い苗の場合の根群問に、きわめて土質のよい土を用意 して投入充てんする客土である。現在ある根に直接接触して発根に良好な土壌環境を用意する して投入充てんする客土である。現在ある根に直接接触して発根に良好な土壌環境を用意する ためのもので, 客土量は少ない。 ためのもので, 客土量は少ない。 (2) 客土量基準 (2) 客土量基準 客土及び土壌改良材の品質は下記を標準とする。 客土及び土壌改良材の品質は下記を標準とする。 (a) 客土の土壌改良 客土は、現場発生土を積極的に有効活用することとし、有機質系土壌改良材を使用した全面改良を基本とす 客土は、現場発生土を積極的に有効活用することとし、有機質系土壌改良材を使用した全面改良を基本とす る。全面改良を行わない場合の土壌改良は、「植穴土量一鉢の土量」の全体に対して行うものとす る。全面改良を行わない場合の土壌改良は、「植穴土量-鉢の土量」の全体に対して行うものとす る。 (b) 有機質土壌改良材 (b) 有機質土壌改良材 有機質土壌改良材は、バーク堆肥又は下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト顆粒)とする。 有機質土壌改良材は、バーク堆肥又は下水汚泥を用いた汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト顆粒)とする。 これらの品質は、「植栽基盤整備技術マニュアル (案)」に適合したものとする。

これらの品質は、「植栽基盤整備技術マニュアル (案)」に適合したものとする。

#### バーク堆肥

バーク堆肥は、粉砕した樹皮に鶏糞や窒素肥料を添加して高温で発酵させて作られるが、完熟したもので なければならない。 完熟していないもの (手触りが堅く, 粒子が粗く, 更に色が薄い) は使用しないこと。 また、炭素率C/N比の高い(30以上)ものは窒素飢餓状態現象を起こし、生育不良の原因となることが あるので、バーク堆肥単独での使用は避け、窒素を補うような緩効性肥料(IB化成)を使用する。

この場合 10kg に対して肥料 0.2~0.3 kg 施用を標準配合とする。

#### 発酵汚泥コンポスト

発酵汚泥コンポストは,下水汚泥を単独又は植物性素材とともに腐熟発酵させて作られた,完熟度が高く, 有害なものや悪臭・べとつきがなく、かつ、排水性を良くするため顆粒とする。

#### バーク堆肥

バーク堆肥は、粉砕した樹皮に鶏糞や窒素肥料を添加して高温で発酵させて作られるが、 完熟したもので なければならない。 完熟していないもの (手触りが堅く, 粒子が粗く, 更に色が薄い) は使用しないこと。 また、炭素率C/N比の高い(30以上)ものは窒素飢餓状態現象を起こし、生育不良の原因となることが あるので、バーク堆肥単独での使用は避け、窒素を補うような緩効性肥料(IB化成)を使用する。

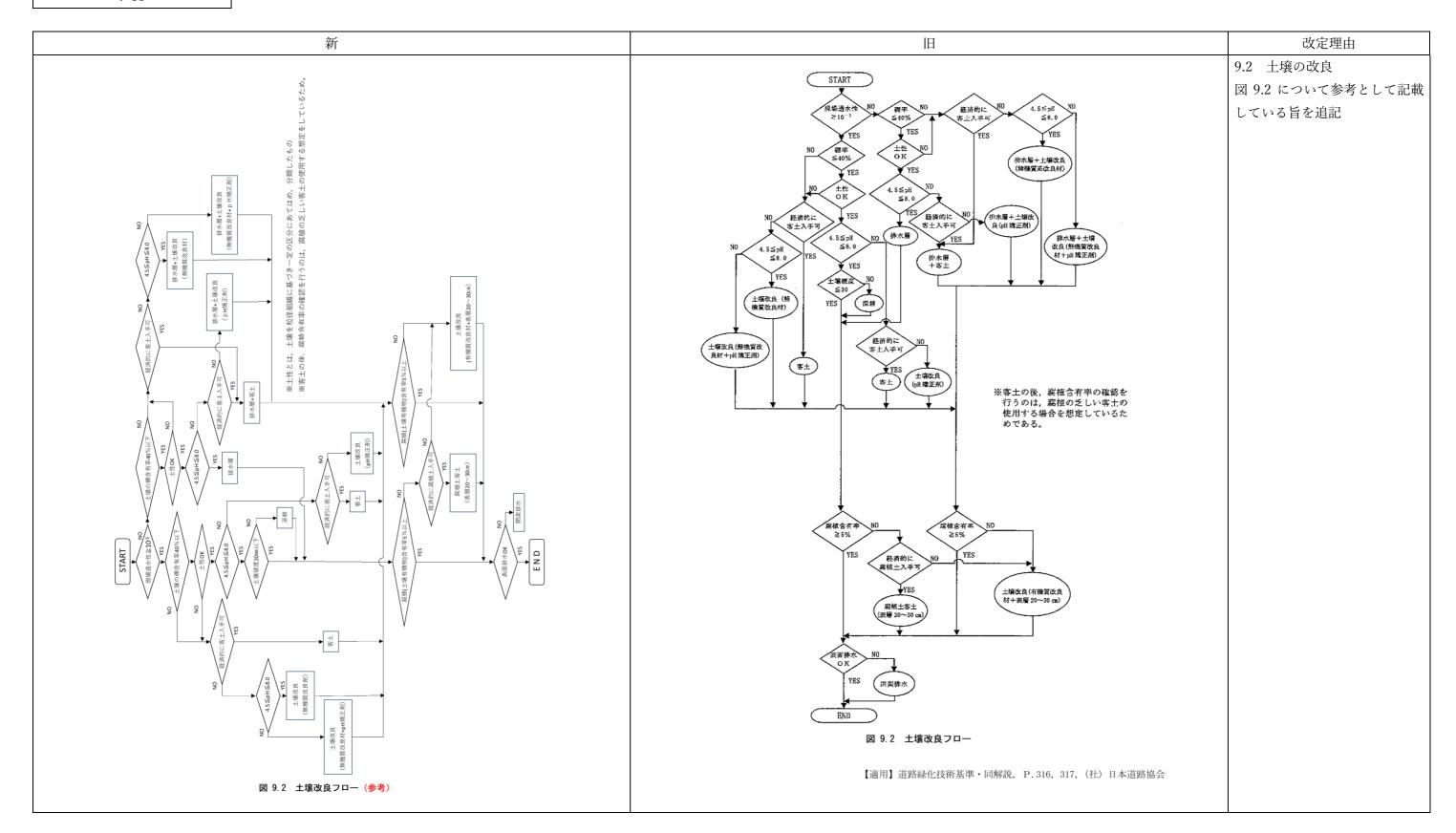
この場合 10kg に対して肥料 0.2~0.3 kg 施用を標準配合とする。

#### 発酵汚泥コンポスト

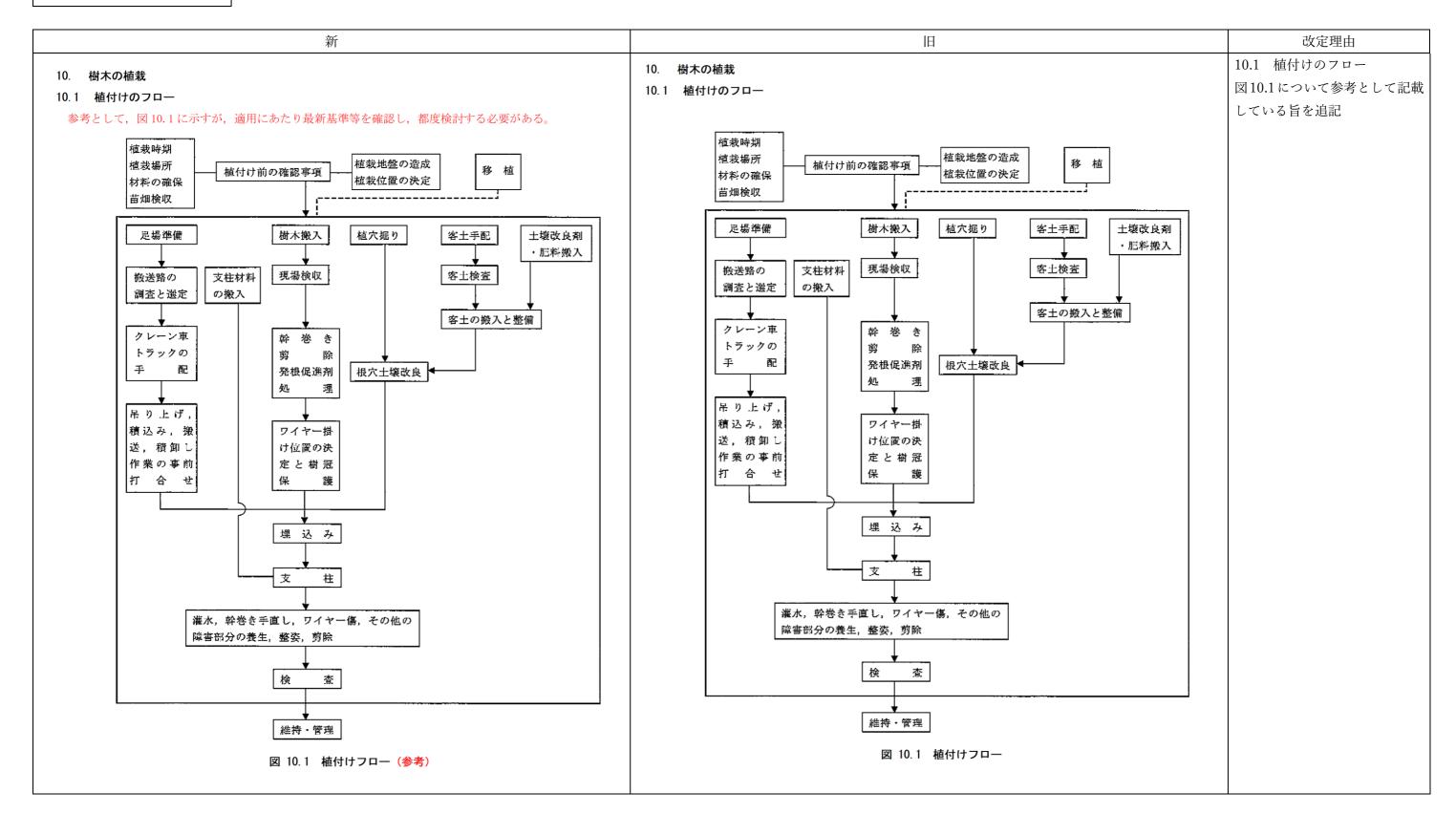
発酵汚泥コンポストは、下水汚泥を単独又は植物性素材とともに腐熟発酵させて作られた、完熟度が高く、 有害なものや悪臭・べとつきがなく、かつ、排水性を良くするため顆粒とする。

			新								旧					改定理由		
表 9.4 土壌環境圧緩和のための各種土壌改良材の効果				表 9.4 土壌環境圧緩和のための各種土壌改良材の効果							造園施工管理 技術編の改定に伴う修							
	土壤環境圧	乾燥	通気透水性の不良	固結	養分保肥力の不足	pHの不良	有害物質の存在	8 63.	土壌環境圧	水性不	水性不	養分不足 (保肥力不足)	H	害物質の存	165 52 180			
土壌	改良剤の種類				1			2.97	無真珠岩パーライト	0	0,000	0		-				
	真珠岩パーライト	0		0					機質黒曜石パーライト	1.13		0	1001	27 /2-1				
無幾質系	黒曜石パーライト		0	0					松脂岩パーライト	_					D <sub>E</sub>			
真系	硬質流紋岩発砲物	0	0	Δ				2 da1	硬質流紋岩発泡物		F 31	Δ		3/85				
1,	珪藻土焼成粒	0	0	Δ					珪 藻 土 焼 成 粒	_	100.001	Δ	10 10	100				
	木炭・再生炭	0	0	Δ					粘土鉱物焼成粒	0	0	Δ						
	バーミュキュライト	0	Δ		0			3.94	木炭・再生炭	0	0	Δ	123					
	ロックウォール	0					1.004.3	7 500	バーミキュライト	0	Δ	19	Til y	1 40				
	ゼオライト				0				ロックウール	0			70					
	灰山砂利		0						ゼォライト			0						
	砂質客土		0						火 山 砂 利	_	0							
	粘質客土	0			Δ				砂質客土		0							
	黒曜石パーライト簡詰体		0						粘質客土	0	_	Δ						
有	バーク堆肥	Δ		0	0		Δ		黒曜石パーライト筒詰体		0	0 0						
幾質	モミ殻堆肥	Δ	0	Δ					有バーク堆肥機	Δ		0 0		Δ				
R K	草炭 (ピートモス)	0		Δ	0	0			質 モ ミ 殼 堆 肥 草炭(ピートモス)			ΔΟ		+				
	ヤシガラ繊維・粉	0	0	0		1 11			早灰(ヒートモ人)ヤシガラ繊維,粉		_	0 4	_	+-				
	汚泥堆肥				0			104	汚 泥 堆 肥			0 2	_	+				
	オガ屑入り牛糞堆肥	Δ			0		Δ		都市塵芥コンポスト	$\rightarrow$	_	0		+				
	発酵鶏糞	Δ			0		Δ		オガ屑入り牛糞堆肥	Δ	_	0	_	Δ				
	食物残渣発酵堆肥	Δ			0		Δ		鶏 糞 発 酵 堆 肥		-	0	-	Δ				
	微生物資材		Δ	Δ	0		0		植物残渣発酵堆肥	Δ		0		Δ				
4	酸化剤						0		微生物資材		Δ .	ΔΟ		0				
	撥水防止剤	0							化学高分子化合物	Δ	Δ	Δ						
	土壤酸度中和剤					0			·   酸 化 剤					0				
ころ・ありるる	アルカリ矯正剤					0			高分子系 土 壌 酸 度 中 和 剤	0			0					
П	複合土壤改良材	0		Δ	0				そ複合土壌改良材	0		Δ 0						
	鉱物繊維改良材	0			0				他鉱物繊維改良材	0		0						
	効 〇有効 △やや効果あり											育効 △ . 244, □			, (社) 日本公園緑地協会			
	【適用】造園施工名	管理 技	技術編,	P. 167,	令和3年	年5月,	(社) 日本公園緑地協会	※ 土壤	環境圧の詳細については、植			術マニュ	ュアル,	P. 108				

第7編 道路緑化



第7編 道路緑化 7-36



第7編 道路緑化

新	ΙΕ	改定理由
10.2 <b>植栽の時期</b> (1) 樹種別の植栽適期	10.2 植栽の時期         (1) 樹種別の植栽適期	道路緑化技術基準・同解説の改定に伴う修正
横 種	横極   横板 栽 適 期 (月)   日本道路協会   横板 栽 適 期 (月)   日本道路協会   横板 栽 適 期 (月)   日本道路協会   日本道路   日本道路協会   日本道路は   日本道路協会   日本道路協会   日本道路は   日本道路協会   日本道路協会   日本道路協会   日本道路   日本道路協会   日本道路協会   日本道路協会   日本道路協会   日本道路協会   日本道路協会   日本道路協会   日本道路は   日本道路協会   日本道路は   日本語を   日本語   日本語を   日本語	
(2) 植栽適期外に植栽する場合の留意事項	(2) 植栽適期外に植栽する場合の留意事項	
・ 植鉢をできるだけ大きくとる。   根 ・ 掘り取った後直ちに植付ける。   ・移植に際しては鉢をぬれたコモで包み,運搬管理する。	<ul><li>・植鉢をできるだけ大きくとる。</li><li>・掘り取った後直ちに植付ける。</li><li>・移植に際しては鉢をぬれたコモで包み、運搬管理する。</li></ul>	
<ul> <li>・幹巻きは必ず行う。</li> <li>・前年生枝が出ている所はできるだけ切り詰める。(1/2~2/3)</li> <li>・剪定は移植前にしておく。(落葉樹約2週間前,常緑樹約3週間前)</li> </ul>	・幹巻きは必ず行う。 ・前年生枝が出ている所はできるだけ切り詰める。(1/2~2/3) ・剪定は移植前にしておく。(落葉樹約2週間前,常緑樹約3週間前)	
<ul><li>・開いた芽はできるだけ落す。(落葉樹)</li><li>・常緑樹は1/2~1/3 落とす。</li></ul>	葉       ・開いた芽はできるだけ落す。(落葉樹)         ・常緑樹は 1/2~1/3 落とす。	
・灌水を十分に行う。(根及び幹) ・蒸散抑制剤を根付け後も数回散布する。 その他 ・寒期の場合は、防寒対策を行う。(敷ワラ・被い) ・樹種ごとの対策があるので留意する。 ・前提として苗畑で床替移植が頻繁に行われたものを用いる。	・灌水を十分に行う。(根及び幹) ・蒸散抑制剤を根付け後も数回散布する。 その他 ・寒期の場合は、防寒対策を行う。(敷ワラ・被い) ・樹種ごとの対策があるので留意する。 ・前提として苗畑で床替移植が頻繁に行われたものを用いる。	

第7編 道路緑化

新	IΕ	改定理由
支柱	10.3 支柱	10.3 支柱 表 10.2 について参考とし
として、表 10.2 に示すが、適用にあたり最新基準等を確認し、都度検討する必要がある。	表 10.2 支柱形式の種類と適用	記載している旨を追記
表 10.2 支柱形式の種類と適用( <mark>参考)</mark>	#⇒ EB 15 20 30 40 50 60 75 90 120	
韓周 15 20 30 40 50 60 75 90 120 主型式 ~14 ~19 ~29 ~39 ~49 ~59 ~74 ~89 ~119 以上 適 用	支柱型式 ~14 ~19 ~29 ~39 ~49 ~59 ~74 ~89 ~119 以上 増の真が不確定なので樹高が	
1鳥居型(添木付) 幹の真が不確定なので樹高が 2.5m以上に使用	2.5m以上に使用   幹の真が定まっているもので樹	
1鳥居型(添木なし) 広場, 街路樹等 高が3.0m以上に使用	4	
1鳥居型 イン 横込面積が狭く美観を要求 おおる箇所に される箇所に	される箇所に 十字鳥居型 使用 樹高5m以上に使用	
高居型 使用 樹高5m以上に使用	二脚鳥居組合せ型	
鳥居組合せ型 "	添え柱型(1本柱) 中低木で樹高Im以上に使用	
柱型(1本柱) 中低木で樹高1m以上に使用	ハツ排型三脚(真竹) " 大規模植込地等広い場所に適用	
掛型三脚(真竹) パ 大規模輸込地等広い場所に適用	八ツ排型三脚(丸太) 横高5m以上に使用,大規模植込地等広い場所に適用	
掛型三脚(丸太) 樹高5m以上に使用, 大規模植込地等広い場所に 適用	布掛型(竹), 生垣型 中低木で標高1m以上に使用	
型(竹), 生垣型 中低木で標高1m以上に使用	地中支持型システム  景観上等で支柱設置が不可能なところに使用	